

## 平成29年度第1回新宿区東京2020大会区民協議会 会議要旨

### <開催日>

平成29年7月18日（火）

### <場所>

新宿区役所本庁舎5階 大会議室

### <出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（23名）

村岡功、鈴木章生、渡邊哲意、山田和男、田中稔、武山昭英、馬場章夫、久保田悠介、島田治、佐藤陽一、安齋正義、吉田淳子、今井康之、金谷ゆか、早川美奈子、太田正一、的場美規子、山本芳裕、久保広介、吉住健一、寺田好孝、鈴木昭利、酒井敏男  
事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長（地域振興部長）、浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長

### <開会>

#### 【東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長】

ただいまから新宿区東京2020大会区民協議会を開催させていただきます。

私は、東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長の加賀美と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日は第1回目の委員会ですので、座長が選出されるまでの間、会議次第に沿って、区のほうで進行させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

それでは、まず委員の委嘱をさせていただきます。新宿区東京2020大会区民協議会設置要綱第3条の規定に基づきまして、吉住区長から委嘱を申し上げます。

#### <委嘱状の交付>

#### 【加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長】

以上で委嘱を終わらせていただきます。

それでは、吉住区長から、ご挨拶申し上げます。

#### 【吉住区長】

皆様、こんにちは。

紹介いただきました新宿区長の吉住健一です。大変な悪天候の中ですが、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

この第1回新宿区東京2020大会区民協議会ですが、いよいよ大会まであと3年となりました。あとわずか3年しかないという段階でもあろうかと思ひています。大会に向けての準備等について色々な議論がございますが、せつかくこの新宿区内で新国立競技場が建設されるということですので、その中で、オリンピック・パラリンピックを直接目にする機会も増えていくと思

います。また、子どもたちや、若者も含めた大人の世代も、ボランティア等様々な形で大会に関わってもらうために、若者が色々なことを体験するための仕掛けづくりを行うというところでも、何らかの役割をお願いする又はお知恵をいただくようなことがあるかもしれないと考えています。

そうした意味では、区内の様々な活動をされている皆様方にご参加をいただき、自分たちの立場でいえば、こういう参加の仕方がある、こういう関わり方をしたいというようなご意見をいただければ大変ありがたいと考えています。

申すまでもなく、このオリンピック・パラリンピックという大会はスポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもございます。そういう意味では必ず、オリンピック研究の中では、文化プログラムといったものを実行しなくてはならないということになっています。その面におきましても、各方面の皆様方から、自分の地域では、あるいは自分の団体ではこういう形で文化を体験し、同時に文化の体験も提供できるといったようなお話もいただければ大変ありがたいと考えています。

今回、五十数年ぶりの東京での開催ということになります。前回の東京オリンピックの前、昭和10年にオリンピックの招致に成功していますが、ご存じのとおり、戦争が始まったということで、辞退をしています。そういう意味では、アジア地域で2回目の開催となったのはこの東京が初めてですし、それと同時に3回目の招致に成功したというのも、世界では非常に珍しい事例です。今後こうした歴史的な瞬間に立ち会えるという機会はなかなか巡ってこないと思いますので、ぜひこの大会を何らかの形で皆様の記憶に、そして次世代の方々の記憶として、語り継がれるようにしたいと考えています。

本協議会には特別アドバイザーとしまして、リオデジャネイロオリンピックで銅メダルを二つ獲得しました三井梨紗子さんも参加をいただいています。残念ながら本日は、7月14日からハンガリーで行われています世界水泳大会に行ってしまうということで欠席されていますが、次回以降、いわゆるオリンピックアンとして、実際に大会に参加した中で得られた知見というものを、私たちのこの地元でどう生かしていけるかといった観点からご発言をいただけるものと考えています。

本日お集まりの皆様方にはそれぞれのお立場の中でお気づきになられた点を、闊達にご意見いただけますようお願いを申し上げます、冒頭の挨拶とさせていただきます。

長い任期ではございますが、よろしく申し上げます。

**【加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長】**

それではここで、各委員のご紹介をさせていただきたいと思います。

<委員の紹介>

**【加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長】**

次に、協議会座長の選任をお願いしたいと存じますが、座長は、協議会設置要綱第4条第2項の規程により、協議会の構成員が互選することになっています。

本日は皆さん、初めてお会いする方が多いことと思いますので、座長の互選については、事

事務局のほうで一任させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

**【加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長】**

ありがとうございます。

では、私からご指名をさせていただきますが、座長については、学識経験者として委嘱させていただきました村岡委員にお願いしたい思います。

村岡委員は、早稲田大学スポーツ科学学術院教授であり、スポーツにおける競技力向上と、スポーツ、運動による健康づくりを研究されています。また、同大学のオリンピック・パラリンピック事業推進委員会の委員長も務められています。賛成の方は、拍手をもってご承認願います。

<拍手>

**【加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長】**

ありがとうございます。では、座長は、座長席にご移動願います。

それでは、早速ですが、座長のほうから一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

**【座長】**

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、早稲田大学でスポーツ振興とオリンピック・パラリンピック事業推進を担当しています、村岡です。本日、このような形で座長に選んでいただきました。力不足とは思いますが、何とかこの協議会を進めていきたいと考えています。

先ほど区長からご挨拶がありました。スポーツやボランティア活動、文化の推進といったことに関して、この協議会で仕掛けをつくるということですので、ぜひ闊達にご議論いただきまして、すばらしいアイデアを出していただければと考えています。

どうぞよろしく願います。

**【加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長】**

ありがとうございます。

それではこの先は、座長である村岡委員に進行をお願いしたいと思います。

**【座長】**

それでは、進めさせていただきます、

次第の二つ目として、新宿区東京2020大会区民協議会座長及び副座長の選出について。三つ目として、部会の設置及び部会長の指名について。四つ目として、これまでの区の取組みについて。五つ目として、今後の事業展開について。このような順番で審議をさせていただきたいと思っています。

まず、副座長の選出についてです。副座長については、協議会設置要綱第4条第2項で、座長同様、構成員の互選ということになっています。

また、同要綱の第4条第4項には、副座長の職務の規程がございます。条文によりますと、「副座長は座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代行す

る。」とあります。こういうこともございますので、副座長については、座長である私のほうから指名させていただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

**【座長】**

ありがとうございます。

それでは、副座長については、目白大学社会学部地域社会学科教授、鈴木章生委員をお願いをしたいと思っております。

鈴木委員は、各地の歴史文化等を生かした魅力の発見・発信を探求されている一方で、「染の小道」などの新宿の地域活動に学生を派遣するといった支援を行っています。そういった実績もございますので、副座長として大変ふさわしい方ではないかと考えています。

どうぞ皆様方のご了解をいただければと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

<拍手>

**【座長】**

ありがとうございました。

それでは続きまして、次第の3、部会の設置及び部会長の指名についてです。

協議会設置要綱第7条には、「協議会は部会を置くことができる」とされています。この件については、事務局のほうからご説明をお願いしたいと思います。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

では、事務局から説明をさせていただきます。

協議会設置要綱の第7条には、「協議会は、部会を置くことができる」とされています。

また、同要綱第7条第2項では、「部会は、座長の指名する構成員をもって構成する」とされています。

続いて、資料3「部会の編成等について（案）」という資料をご覧ください。3年後の東京の2020大会の成功に向け、一つは大会そのものの普及啓発、気運の醸成を進めていくといったこと、それから二つ目としては、大会運営への支援ということで、二つの側面からのアプローチが重要だというふうに考えています。

この二つの側面から、それぞれ具体的にご議論をいただいて、皆様のご知見を伺うという形の部会を設置したいと考え、このような案を出させていただいています。

部会としては、「東京2020大会普及啓発部会」と「ボランティア部会」の二つの部会を新設してはどうかと考えています。

「東京2020大会普及啓発部会」での検討事項としては、東京2020参画プログラムの活用について、町会・自治会・商店会の取組みとの連携について、スポーツの普及啓発について、文化の発信についてを考えています。

また、「ボランティア部会」での検討事項については、ボランティアへの参加気運の醸成について、大学等との連携についてを考えています。

説明は以上です。

**【座長】**

ありがとうございました。

部会の設置について、いかがでございましょうか。特に問題がなければ、ご承認をいただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

**【座長】**

このような部会の設置については、この協議会の目的からしても、当然必要なことではないかと思えますし、先ほど見ていただきましたような形での部会を設置するという事で、ぜひご理解をいただければと思えます。

なお、部会の構成員については、私が指名したいと考えていますが、皆様に部会のご希望を後で伺った上で、指名をさせていただきたいと考えています。

それでは、二つの部会の設置をお認めいただいたということで、続きまして、各部会の部会長を選任したいと思います。

部会長は、協議会設置要綱第7条第3項にございますように、「部会に部会長を置き、当該部会に属すべき構成員のうちから座長がこれを指名する」となっています。ですので、学識経験者の委員の中から、この専門分野ごとに当てはまる部会の部会長を指名することにさせていただきますが、いかがでございましょうか。

<異議なし>

**【座長】**

それでは、「東京2020大会普及啓発部会」の部会長については、情報デザインの専門家であり、区のアートイベントの新宿クリエイターズ・フェスタの企画や広報といった情報の発信、PRに多数取り組むとともに、2008年の北京パラリンピックの際には現地取材の経験もございます、宝塚大学の渡邊委員にお願いしたいと考えています。

そして、「ボランティア部会」の部会長については、地域社会学をご専門にされており、江戸東京博物館オープンに携わる中、約200名のガイドボランティアの教育普及を担当されたほか、現在も学生ボランティアを活用した地域活動に取り組まれており、ボランティアの養成に関わる広い見識をお持ちである、副座長の鈴木委員を指名させていただきたいと考えています。

二つの部会の承認と、それぞれの部会長について、今申し上げたお二人にお願いしたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

<異議なし>

**【座長】**

ありがとうございます。

それでは、次第の4に入らせていただきますが、その前に、この協議会の会議の公開、それから会議録の取扱いについて事務局のほうから説明がございます。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

事務局からご説明をさせていただきます。

会議の公開についてですが、協議会設置要綱第5条第2項では原則公開とされていますので、基本的に会議は公開とさせていただきます。

なお、会議の開催については、区のホームページや広報しんじゅくで周知したいと思います。

続いて、会議録についてです。こちらについては、会議概要のような形で、ご発言いただいた内容をまとめていきたいと考えています。内容については、委員の皆様事前に確認いただいた上で、後日、区のホームページや区政情報センターといったところで閲覧ができるような形で公開させていただきたいと思います。

説明は以上です。

#### 【座長】

ありがとうございます。

それでは、いよいよ次第の4に入ります。これまでの区の取組みについてですが、こちらも事務局からご説明いただきたいと思います。説明が終わりましてから、一括して質疑受けることにさせていただきます。

それでは、よろしくお願いします。

#### 【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

では、資料4「オリンピック・パラリンピックとこれまでの区の取組みについて」をご覧ください。

まず、オリンピック・パラリンピックについてですが、オリンピックは、1896年にピエール・ド・クーベルタンが提唱して始まったものです。スポーツを通じた人間育成、世界平和を究極的な目的として開催しているものです。

リオデジャネイロで行われたオリンピックには、206の国から1万人以上の選手が参加しました。

続いて、パラリンピックですが、こちらはもう一つの平行なオリンピックということで、「パラリンピック」と呼ばれています。1960年からスタートし、1964年の東京オリンピックの際は第2回パラリンピックとして開催されたものです。

リオデジャネイロで行われたパラリンピックには、176の国から4,000人以上の方が参加しました。資料に写真を掲載していますが、こちらの聖火リレー最終ランナーの方は、デ・リマさんといって、アテネオリンピックのマラソン競技で先頭を走っていた際に、乱入した観覧者から妨害を受けた方で、それでも銅メダルを獲得することができました。

次に、オリンピズムについてです。オリンピックの精神ということで、最もオリンピックの基本的な部分になりますが、オリンピック憲章のオリンピズムの根本原則の1番に書かれている言葉をご紹介しますので、させていただきます。

「オリンピズムは人生哲学であり、肉体と意志と知性の資質を高めて融合させた、均整のとれた総体としての人間を目指すものである。スポーツを文化や教育と融合させるオリンピズムが求めるものは、努力のうちに見いだされる喜び、よい手本となる教育的価値、普遍的・基本的・倫理的諸原則の尊重などに基づいた生き方の創造である。」といったものです。努力の大

切さ、ルールを守ること、こういったことを備えた人間の育成ということが、根本原則の一つとして掲げられています。

こうしたことをもって、スポーツを通して心身を向上させて、文化、国籍など様々な違いを乗り越えて、友情、連帯感、フェアプレーといった精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献しようというのがオリンピックの精神というものです。

そして、オリンピックムーブメントですが、こちらはI O Cの統括の下、オリンピックの精神に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指すという活動の総称です。代表的なものとして、ドーピングの撲滅や女性の参画、経済支援、それからパラリンピックそのものもオリンピックムーブメントの一つと数えられています。最近では、1994年に、「環境」という項目も加えられまして、オリンピックムーブメントの大きな柱の一つとなっています。

次に、1964年の東京オリンピック・パラリンピックについてです。昭和39年10月10日から10月24日までが第18回オリンピック競技大会として、東京で実施されました。その後、11月8日から12日にかけて、パラリンピックも9競技144種目という規模で開催されました。

この前回大会の際に、新宿区でどんな取り組みをしてきたかということ調べたところ、当時の広報を見ますと、10月9日に聖火リレーを実施していたということであり、中野区側から聖火が運ばれました。新宿区内に聖火が到着したのがお昼の12時27分頃で、成子天神辺りでした。聖火が受け渡されて、総勢46名の中高生が聖火リレーに参加したという記録が残っています。成子天神から青梅街道を東に走り、大ガードをくぐってすぐ右に折れて新宿通りに入り、四谷消防署新宿出張所で一度中継され、そこから新宿通りをそのまま四谷のほうに向かって行き、12時50分頃に新宿の区間を越えたという記録が残っています。

それから、当時、オリンピック東京大会新宿協力会という組織が設立されたという記録も残っていましたが、具体的にどういうことが話し合ったのかということまでは分かりませんでした。

また、前回大会についても、国民運動というものが行われています。内容といたしましては、オリンピック理解運動や国際理解運動、国土の美化運動、健康増進運動など、七つのメニューでの国民運動が実施されたという記録が残っています。

続いて、東京2020オリンピック・パラリンピックについてです。こちらは3年後になりますが、オリンピックは7月24日から8月9日で、追加種目が5競技決定しましたので、33競技行われます。パラリンピックについては、8月25日から9月6日までの期間、22競技が執り行われます。

パラリンピックが2回目の開催を迎えるというのは東京が初めてということですが。

大会のビジョンといたしましては、「全員が自己ベスト」、「多様性と調和」、「未来への継承」という三つの大きなスローガンを掲げているところであり、これは先ほどご説明をいたしましたオリンピック憲章を踏まえて設定されたものです。

続きまして、気運醸成を目的とした認証プログラムについて、二つご紹介をさせていただきます。一つが、組織委員会が実施している東京2020参画プログラムです。こちらは八つのテーマについて認証しているものであり、公認プログラムはスポンサー企業や競技会場などのある

自治体が申請できるものです。応援プログラムは、その他非営利団体等が申請できるものです。

beyond2020プログラムですが、こちらは内閣官房が推進しているプログラムで、制度利用できる分野は文化に限られているものの、民間事業者や任意団体等でも制度利用できるものです。

続いて、区の実施について、簡単にご紹介をさせていただきたいと思います。

今年度実施したのですが、フラッグツアーを行いました。まず、フラッグ歓迎セレモニーですが、リオオリンピックの閉会式で東京に引き継がれたオリンピック・パラリンピックフラッグが東京都内62市区町村を巡回するというものであり、新宿区には今年の6月3日に到着しましたので、その歓迎セレモニーを行ったものです。

アンバサダーとして、元サッカー選手の釜本邦茂さんにおいでいただきまして、トークショーや、地元のサッカーチームに所属する児童からの質問コーナーといった内容で開催いたしました。

そこで引き継いだフラッグについては、新宿コスミックセンターと新宿区役所本庁舎で展示をしました。

次に、その歓迎セレモニーと合わせて、障害者スポーツを体験できるイベントを開催しました。こちらは6月3日から4日の2日間で、計340名の方にご来場いただきました。種目としては、車椅子バスケットボール、ボッチャ、ブラインドサッカー、体操という4種目で実施したものです。

参加児童や保護者の方からのご感想を色々いただきました。ご紹介させていただきますと、「盛り上げ役の芸人さんがいたこともあり、楽しく体験することができた」、「パラリンピックの観戦が楽しみになった」、「大人も参加できると良い」、「知名度の低い競技にも関心が持てるようなイベントを行ってほしい」といった感想をいただいたところです。

次に、全校フラッグメモリアルツアーとして、新宿区に引き継がれたオリンピック・パラリンピックフラッグを、区立小学校全29校、区立中学校全10校、特別支援学校全1校、計40校に巡回させて、全校児童・生徒とフラッグと一緒に記念撮影を行ったという事業です。撮影した写真については、全ての児童・生徒にお配りし、また、パネルを制作して各学校に掲出いたしました。

オリンピック・パラリンピックフラッグが新宿区に届くという機会を利用して、子どもたちの記憶に残るようにということで企画をさせていただいたものです。

最後に、東京2020大会に向けた気運醸成として、昨年度実施した取り組みをご紹介します。まず、子どもたちに対して、東京でオリンピック・パラリンピックが行われるということ、そして大会エンブレムはこういうものだということを知っていただくことを目的として、区内の保育園、こども園、幼稚園に、周知啓発用のポスターを配布し、掲出いたしました。

その後、各保育園、こども園、幼稚園に対してアンケート調査を行ったところ、ポスターについては、「オリンピックのマークだとすぐに分かっていた」、「かなが振ってあり、子どもが自分で読んでいた」、「パラリンピックを知らない子もいた」といった感想をいただいています。

区のイベントへの要望といたしましては、「オリンピック・パラリンピアンとの交流」、「世界の国の子ども・文化との交流」、「実際の競技・演技の見学」といったご意見をいただいたところでは、

また、園独自のオリパラに関連した取組みについて伺ったところ、「日本文化の体験（茶道等）」、「各種スポーツ体験（サッカー・ボッチャ・ゴールボール等）」、「国際理解のきっかけとなるような遊び（国旗カード・地球儀等）」に取り組んでいるという回答がございました。

また、今後区に期待することといたしましては、「区としての大会への関わりや進捗状況、課題等を教えてほしい」、「スポーツができる機会の確保」、「国際交流・障害者理解の機会の提供」といったご意見をいただいたところでは、

それから、Be The HERO展示として、漫画家の浦沢直樹さんなどが描かれたパラスポーツのイラストを、百人町2丁目にある株式会社ロッテ新宿工場の建屋解体の際の仮囲いに掲出しました。ちょうど戸山小学校の門の裏手ということで、学校のほうにアンケート調査をしたところ、このイラストを見て、自分のパラスポーツ体験を話題にしていた児童もいたということでした。

資料4についての説明は以上ですが、参考までに、新宿区第一次実行計画策定に向けた区民討議会において、東京2020大会をテーマに議論された結果を参考資料として提供させていただきます。こちらについては後ほどお読みいただければと思います。

また、区政モニターアンケートの結果についても、参考までに情報提供させていただきます。

平成25年の9月にオリンピック・パラリンピックの東京開催が決定いたしましたして、平成26年度から、区政モニターアンケートの中でオリンピック・パラリンピックに関する意識調査を行っているところです。

一つだけご紹介させていただきたいのは、東京2020大会オリンピック・パラリンピック競技大会について興味があるかどうかという設問です。平成28年度は、「とても興味がある」と「興味がある」を合わせた、興味ありというグループが75.3%いたのですが、その1年前の平成27年度は80%、更にその1年前の平成26年度は81.3%でした。当初は東京開催が決まって盛り上がったかと思われるのですが、その後少しずつ勢いが落ちていっているのではないかと推測できますので、これから3年後に向けて、こういったところを皆さんと一緒に一丸となって盛り上げていけたらと考えています。

説明は以上です。

#### 【座長】

ありがとうございました。

ただいまご説明いただいた内容は、大きく二つに分けられます。まず、オリンピック・パラリンピックとはということ、それからこれまでの区の取組みということ、その二つのご説明でした。

これらに関して、何かご質問はありますか。

**【委員】**

先ほど、全校フラッグメモリアルツアーのご紹介がありました。その際に撮った写真を本日息子から借りてきています。全校生徒一人ひとりにこういったものが配られるということは、彼らにとって一生の思い出になりますし、また、何十年経っても思い出として振り返ることができます。大変素晴らしい企画だと思っています。

また、小学校では、様々な取組みが今も行われていますが、今後、子どもたちがオリンピック・パラリンピックに本当に関わることができたら、そのことが宝物になるかと思っています。自分たちから発信することで、世界に目を向ける非常によい機会になるのではないかと思いますし、そうしたことを働き掛けるにはどうしたらいいのかということ、この会議で提案していければと思っています。

**【座長】**

ありがとうございました。

その写真は、いつ頃撮られたものでしょうか。お子さんも大変喜ばれたのでしょうか。

**【委員】**

6月の頭だと思います。先日、学校から配付されました。撮影の際には非常に盛り上がったようです。

**【座長】**

ありがとうございます。

ほかに何かご意見、ご発言はございますか。

では、私のほうから少し教えていただきたいのですが、区政モニターアンケートの結果をご紹介いただきましたが、オリンピック・パラリンピックへの関心度が少し落ちているという状況にあるということです。また、オリンピック・パラリンピックに関して、このようなことをぜひ行ってほしいというご意見もあったかと思うのですが、そういう問題に対して、これまでの取組みの中で、新宿区として実施したこと、あるいは実施していないことは何ですか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

区政モニターアンケートでも、例えば、「東京2020大会に期待するもの」という設問では、「青少年に夢を与える」という回答が一番多く、3割近くを占めています。次世代を担う若者がこうした国際大会に関わることで、それを一生の思い出として持っていただき、この大会が国際理解や他者への理解が深まるきっかけとしての一つの役割を果たせばいいと考えています。

また、そういった観点で、今年度の事業組みを行っています。先ほどご紹介いただいた全校フラッグメモリアルツアーの写真については、新宿区独自の取組みであり、1週間で区立の小・中学校全40校を回って写真を撮りました。一校当たりの滞在の時間が非常に短く、大分慌ただしくなってしまった部分がありますが、できるだけ多くの子どもたちの目に触れるようにということで企画したものです。

**【座長】**

ありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。

**【委員】**

パラスポーツフェスタですが、多くの方にご来場いただいたようです。このイベントは新宿コズミックセンターで実施したということですが、今年5月に上野の恩賜公園で行われたパラリンピック競技体験イベントのように、公園などで行うイベントにしてもいいのではないかと考えるのですが、いかがでしょうか。

というのも、昨年、戸山公園及び新宿スポーツセンターで行われたふれあいフェスタの中で、子どもたちと一緒にポッチャや車椅子バスケットボールに参加したのですが、それは新宿スポーツセンター2階で行われていたのです。体育館が2階にあるからということだったと思うのですが、ただ、2階にあるということもあってか、なかなか足を運ぶ方が少なかったように思います。競技の選手の方もいらっしゃったのですが、お話を伺ったところ、この競技は体育館でなくてもできるとおっしゃっていました。むしろ、下で行ったほうが人も集まったのではないかとこの話も伺いました。

ですので、もっと気軽に皆さんが参加できるように、イベントをどういうふうで開催するかについても考えたほうがいいのではないかと考えています。

**【座長】**

ありがとうございます。

パラスポーツフェスタは2階で行ったということですが、2階部分は当然バリアフリーになっていて、障害を持っている方も2階には上がれるということでもよろしいですか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

はい。6月3日、4日のパラスポーツフェスタについては、新宿コズミックセンター2階で行いましたので、エレベーターで上がっていただく形でございました。

本日、会場にパラスポーツの紹介パネルを展示させていただいています。種目によって、屋内がいいもの、屋外がいいもの、色々あろうかと思えます。

ご指摘のとおり、やはり人目に触れる場所で開催したほうが、多くの方に体験していただけますので、開催の方法についても、今後イベントを実施する際に十分検討していきたいと考えています。また、もっとこうしたほうが良いといった具体的なご意見やアイデアなどございましたら、ぜひいただければと考えています。

**【座長】**

ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

今の件も非常に大切な問題だと思います。この後でも、色々のご意見を言っていただければと思います。

では、次第の5、今後の事業展開について、意見交換をさせていただきたいと思えます。まず、事務局からご説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

資料5「今後の事業展開について」をご覧ください。

まず、東京2020参画プログラムです。先ほども少しご案内させていただきましたが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が実施するプログラムです。

東京2020参画プログラムには、スポーツ・健康からオールジャパン・世界への発信までの八つの分野に関する事業について認証を受けると、資料に記載のマークや、「オリンピック」、「パラリンピック」、「東京2020大会」といった文言が使えるといったものです。

公認プログラムというものが、開催都市や政府、スポンサー企業が使えるもので、応援プログラムというものが、非営利団体や開催都市以外の自治体が使えるものです。

この応援プログラムですが、今年7月20日から対象が拡大されて、町会・自治会、商店会においても利用できるようになりました。スポーツ関係だけではなく、地域の行事などにも利用できる制度です。

区としては、できるだけこの制度を活用するとともに、皆様にも、この制度を活用していただくことで、オリンピック・パラリンピックに向けた一体感を高めていきたいというふうに考えています。

次に、東京2020大会1000日前イベント等です。

まず、東京2020オリンピックのちょうど1000日前に当たる今年10月28日に、開催1000日前イベントを開催します。

内容については調整中ですが、開催1000日前のセレモニーといたしまして、デイカウンターのお披露目や、大学生のチアリーダーによる演技などを考えています。

また、セレモニーの後、各種スポーツの体験イベントとして、東京2020大会の追加種目となった空手やスポーツクライミングなどの体験を考えています。また、三井梨紗子さんにもご来場いただく予定です。

同様に、パラリンピックについても、開催1000日前を記念したイベントを11月19日に予定しています。こちらも新宿コズミックセンターにて、パラスポーツの体験イベントやパラリンピック競技のパネルの展示という内容を予定しています。

それから、デイカウンターの設置ということで、新宿コズミックセンターや新宿スポーツセンター、区役所本庁舎、新国立競技場の最寄り駅である信濃町駅において、大会までの日数のカウントダウン表示をするべく、現在進めているところです。

次に、教育委員会の事業になりますが、東京2020大会を契機とした教育の推進を行います。こちらは、児童・生徒の皆さんが楽しみながらスポーツや英語に取り組む機会を創出する事業です。

まず、英語キャンプです。こちらは、夏休み若しくは冬休みの間に、小学5・6年生、中学1・2年生を対象といたしまして、長野県にあります女神湖高原学園に行って、2泊3日の間、英語だけを使って生活をするというプログラムです。28年度に参加した児童・生徒からは、「どうしたらうまく伝わるのか考えるのが楽しかった」、「英語が楽しいと思えたのでうれしかった

た」、「発表会では、苦手な英語で自分の伝えたいことを伝えられ、新しいことに挑戦できました」、「ネイティブの講師と多くコミュニケーションをとることができ、とてもいい経験になりました」といった感想が寄せられています。

障害者理解教育の推進ですが、こちらは全ての区立小・中・特別支援学校で行っているものです。各学校でパラスポーツの体験授業を実施いたしまして、選手との交流や講話を通じて、障害への理解を深めていただくということとともに、パラスポーツへの興味・関心を高めていただくというもので、夢に向かって努力したり、困難を克服したりするというような意欲を培うということを目的とした事業です。

最後に、東京2020大会を契機としたそのほかの主な取組みについてです。

まず、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」ですが、こちらは東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が主催している事業であり、使用済みの小型電子機器等に含まれる金属からメダルをつくるという事業です。新宿区では、特にこの回収のほうにも力を入れていまして、窓口回収は7か所、ボックス回収は13か所でそれぞれ実施しているところです。

観光案内標識の整備ですが、東京2020大会に向けて、外国からいらっしゃる方も多くなるということで、その一環として、外国語・ピクトグラム等を使用した分かりやすい標識を整備するというものです。

最後にご紹介させていただきたいのが、映画「東京オリンピック」上映会です。こちらは、8月3日に四谷区民ホールで実施を予定しています。1964年の東京オリンピックを記録した、市川崑監督の映画「東京オリンピック」の上映と、村岡座長のご講演を予定しています。

こうした事業を通じて、色々な形で東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運を盛り上げていきたいと考えています。

以上です。

#### 【座長】

ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方から何かご意見、ご質問などございますか。

それでは、私のほうから質問させていただきますが、東京2020参画プログラムに八つの分野が挙げられています。こちらについて、先ほど部会として承認された「東京2020大会普及啓発部会」と「ボランティア部会」とで、この八つの分野のそれぞれの部分を考えるとといったことまで考えていらっしゃいますか。

#### 【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

普及啓発部会の検討事項として、「東京2020参画プログラムの活用について」を挙げております。この制度の活用に関してご意見を頂戴したいと考えており、検討する分野については限定していません。

#### 【座長】

ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

**【委員】**

今回のこの取組みというのは、誰に対して行うべきものなのでしょうか。なかなか誰にというのは絞り切れない部分もあると思うのですが、例えば、区民の方たちに対してのことなのか。それとも新宿区にいらっしゃる全ての方が対象なのか。それとも、この区で働いている方たちに対してもなのか。色々な切り口があると思うのですが、総じて誰に対してどんな取組みをしていこうとしているのかというのを、もう少し教えていただけたらと思います。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

基本的には、対象は区民の方ということになるかと思いますが、新宿は色々な方がおいでになります。働きに来る方、学ばれる方、活動される方など、幅広く区民と捉えて、対象にしていいのではないかと考えています。

**【吉住区長】**

この協議会の設置に当たりまして、私のほうも意見を申しましたので、一言お話しさせていただきます。

まず、各分野の団体の方々からこの協議会に参加していただいています。住民団体としての町会・自治会の皆様、あるいは子どもを育てているPTAの皆様、商売をなさっている商店会の皆様、商工会議所の皆様、それぞれのお立場でこの機会をどう生かすかということで、自分たちはこういうものが必要だ、こういうのをやってもらいたい、こういうことをやりたい、そういうようなことをここでお出しただければ大変有り難いと思っています。

先ほど話にでましたが、東京2020大会への関心度が若干下がったという経過があります。あのアンケートを実施した時期は、新国立競技場の建設費用をどこが負担するかという話が出ていたり、あるいはデザインを変更するといった、どちらかというとなりの面の議論が多く出ていた時期でした。

そうしたことの結論が出て、現在に至っていますが、この沈下したムードから脱却したいと私は思っていて、ただ、それは私たちがいくら旗を振っても達成できないので、やはり地域で活躍している企業の皆様、地域の町会・自治会の皆様、スポーツ団体の皆様に、この、世界的にもなかなかない機会をどう生かすかというところで、自分たちの思いをおっしゃっていただきたいと思い、この協議会をつくらせていただきました。

本来こういうことを望んでいるのに、それを発言する機会がなく、結局そのチャンスをもにすることができなくてこの大会が終わってしまったということだけは避けたいと思っています。例えば、自分たちの活動の対象は来外者であるという場合であれば、来外者に向けての取組みなどについてご提言いただいたり、次世代に向けて取り組んでいる立場の方には、子どもたちをどのようにこの大会に関わらせるかという観点からご発言をいただいたり、自分たちが持っている技能を発信することによって、今後日本の文化を継続的に広めたり、また、実践して行動できるような人材を発掘していくといったことなど、それぞれの団体の目的に沿って、この協議会を活用して、政策づくりに一石を投じていただければ有り難いと思っています。

**【座長】**

ありがとうございます。

区長のご説明で、大体お分かりいただけたのではないかと思います。この件に関して何かほかにご質問のある方いますか。区民の方は当然中心にいらっしゃるのだとは思いますが、それ以外に、新宿で働いている方、あるいはオリンピック・パラリンピックのために新宿を訪問する方もたくさんいらっしゃると思いますので、その方々に対して、新宿区として我々は何が提供できるのかということを考えるのがこの協議会なのではないかという気がしました。

こんなことをやりたい、あるいは区にこういうことをやってもらいたいということをもとめると、提言の形になるのではないのでしょうか。

**【委員】**

東京2020参画プログラムですが、二つの段階を考えていいのではないかと考えます。

一つは、大会までの3年間のうちで、オリンピック・パラリンピックに対する直接的なアピールは少ないかもしれないが、各団体で実施しているイベントの一つひとつに、この応援プログラムという冠をつけて、各地域で気運を高めるというものです。

もう一つは、オリンピック・パラリンピックに向けて、各団体が直接参画していくというようなプログラムを立てて、子どもたちと選手たちが一緒に何かを行うプログラムなど、直接的な行動に対して具体的に提案してもらおうというものです。

こういう考え方で、それぞれの団体で何ができるだろうかということを考えていくという方向でよろしいのでしょうか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

今、委員からご指摘いただいたとおり、各団体の皆様に取り組んでいただければと思います。

**【座長】**

ほかにご意見はありますか。

それでは、あえてこちらのほうから、五つほどテーマを絞り込んで、それぞれについてご意見をいただきたいというふうに思いますが、そういう進め方でよろしいでしょうか。

テーマとしては、普及啓発について、スポーツの普及について、パラスポーツの普及について、文化の発信について、ボランティア活動についての五つです。それぞれテーマを設定してご議論いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

**【座長】**

ありがとうございます。

それでは、普及啓発という問題について、少しご議論いただければと思います。

どういうコンテンツを我々が用意すれば区民の方がイベントに参加したいと思うのかというあたりです。あるいは、実際に今までに実施した中で、こんなコンテンツは人気があったというような事例があれば、ご紹介をいただければと思います。

それから、新宿らしい取り組みというのは何かあるのか。そのあたりを踏まえて、この普及啓

発という問題についてご意見を賜ればと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【委員】

私は、2年前まで小学校PTA連合会の会長のほかに、顧問という形で子どもたちと接する機会を多く持っています。もともと、スポーツイベントの企画や運営等を行っており、Jリーグの立ち上げや、2002年の日韓ワールドカップでは候補地等を担当してまいりました。昨年はリオ大会の開会式、競泳関係等で会場に入り、現在はちょうど世界水泳に出ている競泳選手のマネジメントを行っています。それから、浦和レッズの広報の担当もしています。

その中で、競泳選手の古賀淳也は、早稲田出身の選手なのですが、ロンドンオリンピックの派遣記録に0.05秒、爪1枚分届かず、オリンピックには出られませんでした。派遣を逃して落ち込んでいるとき、その当時の校長先生のお声掛けもあって、四谷第六小学校に彼を連れてくることになりました。

小学校のプールで泳いだ彼に対して、子どもたちが大声援を送ってくれました。その後の授業では、体育館で、自分の小学校時代の話をしました。そうした中で、子どもたちが彼の大ファンになってくれて、なかなか学校に来なかった児童が、卒業するまでに古賀選手と一緒に泳ぎたいと言ってくれるまでになりました。

子どもたちに、一つ夢を与えるというのは、とても大きなことだと思います。子どもたちの目つきが本当に変わります。泳げなかった子も泳ぎたいと思うようになります。反対に、アスリート側にとっても、気持ち、心を育てていくということにとっても役に立ちます。

古賀淳也が四谷第六小学校で泳ぐのは今年で5回目となります。今年からは、淀橋第四小学校や西新宿小学校でも行います。これは、競泳だけでなく、ほかの競技にも置き換えることができます。子どもたちに本物のアスリートというものをしっかりと見せてあげる必要があると思っています。

#### 【座長】

ありがとうございます。

区でも、パラスポーツフェスタを実施していましたが、この点についてはいかがでしょうか。

#### 【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

はい。先ほどご紹介をさせていただきましたパラスポーツフェスタでは、実際にパラリンピックに出場された方や現役アスリートの方などにお越しいただいて、実演を交えてパラスポーツの競技体験を行いました。

やはり、アスリートの方やパラリンピアンの方に実技を見せてもらおうと、子どもたちの目が変わり、大きな歓声が上がっていました。

#### 【委員】

関連して、新宿未来創造財団の取組みとこれからの事業展開をご紹介させていただきますと、昨年8月13日に、リオデジャネイロパラリンピックに出場した女子ゴールボールの代表の方々による試合を、区民の方々に間近で見させていただき、少し体験していただくというような機会を設けまして、2日間、延べ201人の方にご参加いただきました。

また、東京ヴェルディと協力して試合をご観戦いただいたり、野球ではヤクルトスワローズや読売ジャイアンツのご協力を得て子どもたちに体験してもらったり、見てもらうという事業も展開しています。

この区民協議会で出た意見を踏まえて、財団のほうでも、経営計画の策定をしていきたいと考えています。

**【座長】**

ありがとうございました。

例えば、こういうイベントを企画したら盛り上がるのではないというようなご提案は何かありますか。

**【委員】**

対象を様々にするというのが一番かと思います。私には子どもがおりますが、子どもを絡めたイベントを行っていただければ、必ず家族が集まりますので、そのことによってより発信しやすくなると思います。

最近では、30～40代ではフェイスブック、若い方にとってはインスタグラムなどが流行していますが、そういったSMSで発信していただけるというのも一つの手かと思います。その点を考えてイベントを開催していただければと思います。

**【座長】**

ありがとうございました。

今、非常に貴重なご意見をいただきました。対象者を様々に考えていただくということがいいのではないかとことです。また、有効な情報発信についても考えていくということで、これらのことについては、また部会で具体的に検討していただくことにさせていただきます。

ほかの方はいかがでしょうか。

**【委員】**

障害者教育の理解の推進ということで、各区立小中学校で様々な取り組みが行われています。毎年数回この取り組みが行われるということになってはいますが、やはり、子どもたちは、障害を持つ方々がスポーツするというイメージがなかなか湧かない中で、そういった方々がスポーツをする姿を見ると、どういうふうに行っているのだろうと思うようです。子どもの言葉を借りると、「神」という発言をするほどで、非常に驚くことが多いです。

そういうことに興味を持って帰ったら、家で親に話します。また、帰宅途中に地域の方々に話をしていくというようなこともあります。

やはり、子どもたちを巻き込んでイベントをしていくということが、それが周囲に波及して、オリンピック・パラリンピックに対して興味を持てるようになっていくのではないかと感じています。

先ほど、お話があったパラスポーツフェスタですが、非常に参加者が多かったですね。参加できない方々もいらっしやいました。やはりこういうイベントを、各小学校、幼稚園などでも

実施することで、子どもたちのオリンピック・パラリンピックに対する考え方が変わってくるのではないかと考えています。

**【座長】**

ありがとうございます。

色々な場所で実施ができるようにということですね。確かに、障害を持っている方々があんなにすばらしいパフォーマンスを発揮する姿を、幼児や児童らは驚きをもってみるのではないかと思います。

それでは、次のテーマ、スポーツの普及についてご議論いただければと思います。

各地域、あるいは各団体において、どういう取組みを今現在、このスポーツの普及ということに関して進めているのか。あるいは、そのスポーツ活動について、ハード面やソフト面からどういった推進策というものが考えられるのか。この辺のところを少しご議論いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

**【委員】**

スポーツの普及ということですが、スポーツに触れてみたい、やってみたい、またはこういった事業などで体験してきたことを次につなげていかなければ、単に「やった」、「経験した」だけで終わってしまいます。これではレガシーにはつながっていかないと思います。

ですから、体育協会の我々としては、まだ具体的にどのような形でということを出ていないものの、この盛り上がった気運を、子どもたちに限らず一般の方々も含めて、何かこれからスポーツに従事できるような形をできるだけ取り入れて、我々も多くの方を受け入れていきたいと思えます。そうでなければ、2020年が終わった段階で全てが消えてしまうと思えます。

小中学校でスポーツに従事する子どもたちが少なくなっていると聞いていますので、子どもたちが長い間にわたってスポーツに関わっていけるような形をとっていきたいと思っています。

**【座長】**

ありがとうございます。

新宿区民の方のスポーツ実施率、例えば50代の方、40代の方、あるいは高校生、中学生、小学生とか、そういうスポーツの実施率的な調査というのは、毎年、あるいは5年に1回とかなさっているものでしょうか。もし何かありましたら教えてください。

**【生涯学習スポーツ課長】**

今、スポーツ実施率については、非常に注目を浴びているところです。私どもではそこは熱心に取り組んでいるところなのですが、毎年、区政モニターアンケートで、スポーツ実施率を調査しています。スポーツ実施率の定義としては、国のほうでは、週1回1時間以上のスポーツを実施している方と設定していますが、我々としては余りそういった細かいことは聞かずに、定期的に週1回以上スポーツを行っている方というところでお尋ねをしているところです。

今のところ、55%を目標にして、そのぐらいのところまではいつているのですが、実際は、そんなにスポーツを行っているような実感は区ではないというような厳しいご意見も頂戴しています。

健康部では、健康とスポーツを結びつけていて、スポーツ実施率について着目をしている部署であり、庁内でも連携をしながら、広くウォーキングから競技スポーツまで、幅を広く持たせてスポーツの実施率を上げていきたいと考えています。そういう意味での、軽体操みたいなものも含めてのスポーツ実施率の向上には取り組んでいきたいと思っています。

**【座長】**

ありがとうございました。先ほどお話があったように、オリンピック・パラリンピックが終わって、もう何もなくなってしまったというのでは、本当に何のために取り組んだかわかりませんので、せめてこれを契機として、例えばスポーツ実施率が10%、20%上がりましたとか、こういうことでずっと将来に向けて取組みができればいいなと感じました。

**【委員】**

町会・自治会としては、これから盆踊りなど縁日等ありますので、先ほどの応援プログラムを活用して、皆さんに知っていただきたいと思うのですが、今お話ありましたスポーツ実施率に関しては、区民の方にもっとスポーツをしていただきたいと思っています。

もっとスポーツをやっていただくためには、区のほうでもスポーツ環境の整備というものをしっかりとっていただきたいなと思っています。そのためにはやはり、確固たる財源に基づいて進めていただけたらと思っています。

**【座長】**

ありがとうございます。これについては、いかがでしょうか。

**【吉住区長】**

今ご指摘いただきましたスポーツ施設については、大局的な視野を持って考えなくてはいけないと思っています。つくった後のメンテナンスはもちろん、効率的に活用していただけないような場面もどうしても出てきてしまいますので、区外の土地に活路を求めるとか。それともやはり区内で整備をして、効率的な配置によって、今使っている量よりも多くの駒を増やすのか。そのようなことも考えなくてはならないと思っています。

オリンピック・パラリンピックの際に何を残せたかということの記憶の部分、それから自分で体験したものの部分、それからもう一つはやはりインフラだと思っています。その中の一つとしては、やはりどのような財源で構築していくのか、そこも含めて考えていきたいと思っています。

今あるものを減らすということはないように、東京都が持っている公有地もありますので、その活用の仕方についても、なるべく区民が優先的に使えるような形を残していけないかということで、今後も粘り強く都とも交渉していきたいと考えています。

**【座長】**

ほかに何かございますか。

**【委員】**

私は、学生時代から社会人までラグビーをやっているし、ラグビーは正直痛そうですし、汚れますし、苦しうなもので、余り人気が出なかったのです。3年前のワールドカップで日本

が南アフリカに勝ったときに、そこからまたラグビー人気というものが盛り返してきたのですが、そこには布石があって、それまでラグビーが低迷している中で、ラグビーの普及をすごく頑張ってくれていた方がいっぱいいました。

そこには二つ要素がありまして、一つは、ぶつからなくてもいい、タックルしなくてもいい、タグラグビーというものです。口のところにひもをつけておき、それをとったらタックルとみなすというラグビーがあるのです。

もう一つは、これは歌舞伎町でもやったことがあるのですが、ストリートラグビーといいまして、3対3ぐらいの人数で、パスのし合いで相手を抜くというような単純なラグビーがありません。

やってみると子どもたちの参加も非常に高いですし、驚くのは、女性の参加が多いということなのです。今、女性のラグビーもあります。それから7人制ラグビーでも女性が活躍しているという意味で言うと、ラグビーは、本来100m、50m四方のグラウンドがないとなかなかできません。そうするとやるのがすごく難しいのですが、今申し上げたタグラグビーやストリートラグビーというのは、テニスコート1面、若しくはその半分ほどあれば問題なくできます。それが普及ということの一つのきっかけになるのではないかと思います。

これをほかのスポーツに当てはめてみると、例えば、バスケットもスリー・オン・スリーというバスケットがあります。競技種目のミニ版のようなものが一つのきっかけとなって成長していくという面もあるので、交流場所とそれを教える知識を共有していくことによって、普及されていくのではないかと思います。

#### 【座長】

ありがとうございます。そういう側面も非常に大きいと思いますので、何か考えていかなければならないと思います。

それでは先ほど来、いくつか話にも出ていますが、パラスポーツの普及ということについて、各地域、団体においてどういう取組みをこれまで進めてきたかということ、もう一度何かご発言があるようであれば伺いたいと思います。

#### 【酒井教育長】

学校での取組みをお話したいと思います。

28年度は小学生8校、中学校2校と特別支援学校1校でブラインドサッカー、シッティングバレーボール、ボッチャ、ゴールボール、車椅子バスケットボールを実施しました。今年度は、全校でこの5種目それぞれ希望を出して実施をする予定になっています。

そういう中で、子どもたちがパラスポーツを知り、できるようになるということになれば、パラスポーツも普及していくのではないかと考えています。新宿の子どもたちは、5種目のうちのどれかを経験をしていますので、そういった中で、何か区に声をかけていただければ有り難いと思います。

#### 【座長】

ありがとうございます。パラスポーツを全校に広げていただいているというので、大変すば

らしいことかなと思うのですが、その際に指導者の方というのは十分手当ができるものなのですか。

#### 【酒井教育長】

社会福祉協議会の方をお願いして、ゴールボール日本代表の選手につなげていただいたりしています。昨年度は、日本車椅子バスケットボール連盟に来ていただいたり、ボッチャはリオデジャネイロ大会の銀メダリストの方に来てもらったりしています。パラスポーツに関しては、指導者の方々は、今あちこちからお声が掛かって大変らしいのですが、区の場合は社会福祉協議会が昔からお付き合いがあるおかげで、指導者の方を紹介していただいている状況です。

#### 【委員】

今、教育長からご発言がございましたとおり、新宿区の社会福祉協議会では、そういった地域の皆さんや、障害をお持ちの方のご協力を得ているとともに、社員であるオリンピック・パラリンピアンを派遣してくださる企業ともつながりがあります。

昨年は、区内の小中学校では延べ45校で実施し、子どもたち2,375名の実績がございます。

今年は40校ということですので、その事前事後学習のところで、体験学習として、障害の方との触れ合いを含めて、先生方の協力を得ながら進めています。そういう意味ではパラスポーツの理解が子どもたちから広がっていくといいと思っています。

#### 【座長】

ありがとうございました。今、パラアスリートを抱えている企業もあって、そういう企業や大学が、積極的に選手の派遣を行っていますから、そういうところとも連携をとりながら、できるだけ多くのパラアスリートを派遣していただくということをお考えになったらよろしいのではないかと思います。

#### 【生涯学習スポーツ課長】

一つご紹介をさせていただきたいのですが、私どもではスポーツ推進委員を担当しています。

今、スポーツ推進委員の皆様の相当数がボッチャの普及指導員の資格を取っていらっしゃって、地域でボッチャを行う際に審判を務める、コートをつくるというところのお手伝いを積極的にしていただいています。

今年の6月から、こども園や幼稚園にもスポーツ推進委員の皆様が入ってボッチャ遊びを行うなど、普及にご協力いただいているので、もし皆様のほうで、ボッチャを手始めにやってみようかということがあれば、スポーツ推進委員がいらっしゃいますので、そうしたところから広がっていけばいいと思っています。

#### 【座長】

ありがとうございます。指導者の養成にも力を入れていただいているということです。そうした方の養成という点でも、ご尽力いただければと思います。

ほかにいいですか。

#### 【委員】

私、2008年の北京のパラリンピックの際に現地取材に入り、色々な選手の方のインタビュー

もさせていただき、そこで知ったことが多くあります。パラリンピックの陸上では、障害の度合いによって様々な競技の仕方があります。同じ100mでも、車椅子の100mであったり、視覚障害の方の100mであったり、色々な障害のある方が同じ100mに取り組んでいて、そういうところを子どもたちに伝えたいと思っています。

北京にいた際に、ずっと日本の報道を見ていたのですが、メダルを獲得した人しか伝えていないのです。海外のメディアは、メダルに関わらず、出場した選手のインタビューも出していました。

私は、視覚障害の方、特に初出場の選手を主に取材していました。その中で、沢田優蘭選手と言って、中学生のときに目が見えなくなって、それまで陸上部だったけれども、やる気をなくしてしまって、そのとき、盲学校の先生にアドバイスを受けてパラリンピックに初めて出場した方がいます。当時、18歳で初出場だったので、彼を追いかけたのですが、その2年後の東京のパラスポーツの競技イベントで再会したときには、後輩をつくるほどになっていました。

そういったところで、パラリンピックの中にも、色々伝えられるものがあるのではないかと思います。障害者の方が競技にどのように取り組んでいるかということは、教育的にも伝えるほうがいいのではないかと思います。そういったところを体験させるのはいいと思います。

#### 【委員】

先ほど話に出た、地域での活動という点で、一言申し上げたいと思います。

ボッチャという競技は、重度の全身性障害の方でも楽しめるということをルールとしていまして、非常に親しみやすく、ルールも簡単であるということで、色々な方が楽しんでいる競技なのです。

今、障害者福祉センターでは、地域の方々を巻き込んだボッチャ大会を企画しています。地域の民生委員や町会・自治会の方、小学生、保育園児、障害をお持ちの方、そういった方々がチームを組んで、お互いのルールの下で競い合い、パラスポーツを知ってもらう機会を増やしていく取組みを考えています。

ボッチャのルールを簡単に説明しますと、カーリングのようなもので、中心にある的に、誰が一番ボールを近づけるかというものなので、ルールも至って簡単ですし、やはり高齢者の方々でも参加できるというような要素も持っていますので、そういう普及活動を地域の中でどんどんやっていただければ、パラスポーツの普及も進んでいくのではないかと思います。

#### 【座長】

ありがとうございます。

色々なご意見、ご発言をいただきまして、大変ありがとうございます。

それでは、次は文化の発信ということについて、少しご意見を伺えればと思います。どういう取組みをこれまで、各地域や団体において行って、進めてきたのかということがもしあれば、お聞かせください。

それからやはり、文化の発信ということについて、この新宿区の何か強みみたいなこともあるのかどうか。あるいは新宿らしい取組みとはどういうものか。何かご意見ありましたら願

いします。

**【委員】**

文化芸術に関しては、新宿区では既に様々な取組みを行っています。例えば、日本の伝統文化を伝える、多様なスタイルを発信するストリートファッションショーを行う、アート作品の発表、アートでまちを明るく楽しく演出する、といったことを行ってきました。

先週、文化芸術振興会議があり、新宿フィールドミュージアム・アクション2020について話し合いました。新宿では、10月から11月に様々なジャンルの、また世代に応じた有料、無料のプログラムを行っています。オリンピック・パラリンピックの開催期間を考慮して、2019年からは、今までは10月から11月だったものを、7月から11月に期間を拡大します。同時に、1日の開催時間を長くする方向で協議しています。2016年の実績ですと、参加観覧者数は47万人だったのですが、2020年は100万人を目標に設定しています。また、人を大量に呼ぶためには情報の多言語化が必要だということで、ガイドブックやホームページには日本語しかなかったのですが、2018年から徐々に増やしていき、2020年にはガイドブックを日英中韓対応に、ホームページに至っては更にフランス語対応も加えるという形で行っていこうと思っています。

一部の個人や団体だけの活動にとどまらず、ぜひこの機会を生かして、スポーツや文化を皆が体験し、更に発信していけるようになったらいいと思っています。

また、新宿区が、日本だけではなく世界に発信していけるよう、何か貢献できればと考えています。

**【座長】**

ありがとうございます。色々な取組みを既に行っているようで、ホームページやガイドブックにも様々な言語に対応できるようになるということと、来場者の方が倍増するような計画を考えていらっしゃるということです。当然、その中には区民の方はもちろん、オリンピック・パラリンピックで外国から来られる方を対象とした何か文化活動、イベントということも当然盛り込まれる理解でよろしいでしょうか。

**【委員】**

はい。外国では、夜に活動される方も多かったりしますので、今まで昼間の開催だけだったものを夜間に延ばすなど、外国人向けに夜の新宿というのを知ってもらうことなど様々なことを考えています。

**【座長】**

ありがとうございます。

ほかには何かご発言ございますでしょうか。

では、最後に、ボランティア活動について、こちらも各地域、団体でどのような取組みを進めていらっしゃるのか。あるいは、ボランティア参加の気運醸成には、どういう取組みがいいのか。その辺りについてご議論いただければと思いますが、いかがでしょうか。

**【委員】**

ボランティアについては、私ども新宿未来創造財団のほうで、地域人材ネットワークという

ホームページを開設しています。その中で、区民の皆様方が持っている能力、活用してほしい分野などを出していただくとともに、そういった能力を活用したい方々につなぐということで、財団のほうでコーディネートをするネットワークを持っています。

分野は、アーティスト、スポーツ、日本語教育、翻訳、通訳など、様々な分野において取り組んでいるところであり、現在、600名弱の方が登録されているという状況です。

**【座長】**

ありがとうございます。オリンピック・パラリンピックの際には9万人ほどのボランティアが必要になると言われています。部会のほうで検討していただく内容としても、大学等との連携について考えていただくことになっています。現時点では、新宿区とほかの自治体との間でボランティア活動に関して、何か話し合いをしているといったことはあるのでしょうか。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

オリンピック・パラリンピックに向けて具体的な話し合いなどの動きは今のところありません。

**【委員】**

ボランティアについてですが、区が何か行うことへのボランティアなのか、それとも大会自体へのボランティアなのか。その辺りは全く見えていないのでしょうか。それによってどのように人員を集めたらいいかが変わってくるかと思います。

**【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】**

オリンピック・パラリンピックに向けたボランティアの募集は来年の夏頃に始まる見込みです。

組織委員会が募集し、大会運営に携わる大会ボランティアと、東京都が募集し、会場への案内などを行う都市ボランティアがあり、合わせて9万人ほどが必要になるとされています。募集開始に向けて、どういうことができるか。それから、東京2020大会を契機として醸成していくボランティアの参加気運を、2020年以降にどうつなげていくかといったことも含めて、ボランティア部会の中で色々なご意見を頂戴したいと考えています。

**【座長】**

ありがとうございました。

ほかにごありますか。

それでは、第1回目の協議会はこれで閉会とさせていただきます。

本日は、長時間にわたるご審議ありがとうございました。

<閉会>